「忘却ライト」

学習するノヤ

登場人物

浩也（２７）　夫

まりこ（２９）　妻

浩也の母（５７）

浩也の父（５８）

まりこの母（６０）

親族たち

テレビのニュースキャスター

○浩也の実家・居間（夜）

１０人ほどの親族が集まり、居間でお茶を飲んでいる。

浩也の母（５７）は落ち着かない様子で湯呑みでお茶を飲んでいる。

そんな浩也の母の様子をすぐ隣で心配しているまりこの母（６０）

浩也の父（５８）はピーナッツをつまみながらビールを飲んでいる。

まりこの母「（浩也の母に）朝子さん、お茶のお代わりでもどうですか」

浩也の父「（浩也の母に）落ち着けってお前」

浩也の母「（苛立った様子で）どうしてあなたはそんなに・・・」

浩也の父「俺たちが焦ったって、しょうがない。結論はあの二人が決めることだろ」

浩也の母「（机の上に置いた書類を見つめながら）私たちに黙ってこんなもの申し込んで・・・」

テーブルの上には「忘却ライト使用申請書」という書類が置かれている。

○同・別室（夜）

畳の部屋、中央に机。

その机に向かい合うようにして、浩也（２７）とまりこ（２９）が座っている。

浩也「なあ、考え直してくれよ」

まりこ「無理」

浩也「・・・」

まりこ「浩也はいつも言ってたでしょ。私のことならなんでもわかるって」

浩也「・・・」

まりこ「なら分かるでしょ。いま私がどういう気持ちか。考え直すってことが本当に可能なのかどうか」

浩也「・・・」

まりこ「どう？」

浩也「無理……です」

まりこ「は？」
浩也「いや、だからこれはまりこの心を読んだだけで、俺がそう思ってるってわけじゃ」
まりこ「もう親戚だって呼んじゃってるんだし」
浩也「それはお前が勝手に」
まりこ「だってあなた、事前に言ったって、協力してくれた？」
浩也「するわけねえだろ！記憶を消すって分かってんのに」
まりこ「しょうがないでしょ。このライト使うときはそういうルールなんだから！私たちだけ記憶消したってしょうがないの。結婚は二人だけの問題じゃないんだから」

○同・居間（夜）

居間に集められた親戚たち
「忘却ライト使用申請書」の横には「厚生労働省認可」という文字が見えている。

その紙を忌々しいといった表情で見つめる浩也の母。

浩也の母「国がこんなものを作るから・・・」

○同・別室

数時間後

浩也「わかった。わかったよ」

まりこ「・・・」

浩也「俺たち別れよう」

まりこ「・・・」

浩也「後悔しないよな、俺たち」

まりこ「後悔なんてしない。だって忘れちゃうんだもの。結婚してたこと自体が、なかったことになるんだよ」

浩也「ごめんな、まりこ」

まりこ「・・・いまさら遅い」

浩也「だよな。でも謝りたかった。伝えておきたかったんだ」

まりこ「受け入れられないのに、謝るだなんてさ、最後まで、ほんと自己中だね」

まりこ、浩也から視線を外すが、その目には涙が浮かんでいる。

○同・居間（夜）

親戚たちが集まっているところに、まりこと浩也が入ってくる。

浩也の母「浩也！」

まりこの母「まりこ……」

浩也、まりこが俯いている。

まりこの母「結論は……？出たの？」

まりこ「別れる。私たち。ちゃんと」

浩也の母、驚きで口元を押さえる。

×　×　×

親戚たちが、規則正しく座っている。

親戚たちが見つめる先には、みんなの前に立つ浩也とまりこ。

浩也「ぼくの、ふがいない行いで……」

まりこ、浩也をこづく。

浩也「えっ」

まりこ「別にあなたがしたこと、言ってない

から。わざわざ言わなくていいの」

浩也「え、でも」

まりこ「え、でもじゃないの。今更、善人ぶらないで」

浩也「……」

まりこ、忘却ライトを取り出す。

まりこ「私たちは、離婚します。そして、そのために、この、忘却ライトをみなさんに使わせていただきます。せっかく祝福していただいたのに、ごめんなさい」

浩也「……」

まりこ「使う理由は」

浩也、まりこを見つめる。

まりこ「使う理由は、みなさんもご承知だと思いますが、これを使って記憶を消すと、法律的にも、結婚歴が抹消されるからです」

浩也「……」

まりこ「あと、理由はもうひとつあって」

浩也「？」

まりこ「彼との……、浩也さんとの思い出を、バッドエンドで終わらせたくなかったんです」

浩也「……」

まりこ「私の人生は、すこし他人よりも損をしてるってずっと思ってました。だから、私は、すこしずつすこしずつ損をして、死ぬ時には、他人の半分くらいの幸せで満足するしかないんだって、私は、そうなんだって」

浩也「……」

まりこ「でも、浩也さんと結婚して、そうじゃない、って思ったんです。あまりに幸せすぎて、逆転ホームランじゃん私、って」

浩也「……」

まりこ「でも、幸せだったけど、離婚することになって、私はまたどん底に落ちてしまう」

浩也「……」

まりこ「永遠に幸せを手に入れたんだって思ってたぶん、余計つらくて。だから、こうさせてください。ごめんなさい」

浩也「……まりこ」

まりこ、忘却ライトの蓋をあける

浩也「まりこ、やめろ、俺たち、やり直そう」

まりこ、まるで聞いていない様子で準備を進める。

浩也「俺も愛してる、まりこ」

まりこ「え？俺も？」

浩也「え？え？」

まりこ「私は、もう未来を向いているの。次はめちゃくちゃイケメンと結婚できますように！」

浩也「えええええ！」

辺り一面に光が走る。

○T「数年後」

○新居・外観

居間には、赤ちゃんがいる。
赤ちゃんをあやす、まりこと浩也。
部屋には、まりこと浩也の結婚式の写真が飾られている。
まりこ、幸せそうに赤ちゃんを見つめている。

まりこ「あーあ」
浩也「うん？」
まりこ「（いたずらっぽく）私はイケメンが好きだったのになあ。アイドルみたいな人と結婚する予定だったのに」
浩也「もうそれは聞いた」
まりこ「え？初めて言ったけど」
浩也「ええ？そんなはずないよ」
まりこ「でも良いんだー、この子に出会えて幸せだし。（赤ちゃんに向かって）ねー」

TVではニュースが流れている。
キャスター「離婚歴を抹消できる制度として導入されていた「忘却ライト」について、

政府が全国的な制度廃止を決定いたしました。導入により一定の未婚率減少や晩婚化の抑制効果を見込めるという予測があったものの、関係者の調べでは、記憶抹消後に全く同じ相手と婚姻関係に至る事象が多数確認され、開発費用などの予算採りが難航したと見られ……」

おわり